



優秀賞

深川市
妹背牛町
沼田町
北竜町
秩父別町



コロナ禍期間中の受入風景（ハロウィン用のランタン作り）

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体

元気村・夢の農村塾

【深川市、妹背牛町、沼田町、北竜町、秩父別町】

～ 出会いは人生の種まき ～

【はじまりは？】

都市部の人との交流をとおして、農業・農村の理解者を増やすことを目的にして平成14年3月に設立し、自分たち自身も夢を持つことができるように「夢の農村塾」と名付けました。

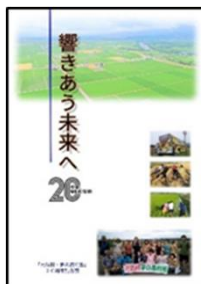
初代塾長のモットーである「出会いは人生の種まき」、「一期一会」という言葉を基本理念に活動を行っています。

道外の都市部から来る子供たちにとって、短い期間であっても、北海道の田舎での生活は異文化体験であり、私たちとの交流が一期一会であるからこそ、出会いと過ごす時間を大切にしたいと思っています。

【おもな活動】

主に修学旅行で来道する道外の高校生を対象に20年以上にわたり農業体験の受入れを行っており、1泊2日でのファームステイのほか、2泊3日や日帰りでの受入れも行っています。

体験内容としては、農作物の収穫や草取り、トラクター乗車体験といった農業に関わる作業のほか、会員個々も工夫を凝らして、蕎麦打ちや豆腐作りといった農作業以外の体験メニューも行っており、食事も自家野菜やお米を使って一緒に料理することで、手作りの美味しさや作る喜びを実感してもらっています。



記念誌
(20周年記念)

【ここが自慢】

農業体験といっても、水稻や畑作以外に果樹園を経営している会員もおり、非常にバラエティーに富んだ体験をすることができます。

また、会員宅に宿泊しての農業体験となるので、みんなで一緒に畑から野菜を収穫してご飯を作ったり、都会では見ることのできない満天の星空を鑑賞したりと、一期一会の出会いや時間を大切にしています。

一生の思い出を作れるようにと受入活動を行ってきた結果、20年以上の活動期間で1万7千人以上の方々に農業体験をしていただいている、最近では海外から来る方にも体験をしていただいています。



20周年記念誌
からの抜粋

連絡先

代表者名：村上はるみさん／設立：平成14年／会員：23名

住所：

電話番号：

F A X：

E-mail：

U R L：



体験農場での収穫体験

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
特定非営利活動法人 山のない北村の輝き
【岩見沢市】

～ いつまでも大切な故郷 ～

【はじめは？】

地域住民に対して地域のまちづくりのため、旧美唄川の「水辺の楽校」を拠点として、地域の風土を学び、適正な河川利用と環境の保全、地場産業の活性化などに地域住民の声を反映させるなど、よりよい「まちづくり」の創造と国土の保全に寄与することや、市町村合併等により人口減があっても、「北村地域に何かを残したい」、「子供たちが大きくなった時に帰ってきたいと思えるような故郷にしたい」との思いから、平成16年にNPO法人として発足して活動を行っています。

【おもな活動】

河川環境の維持や植樹の活動のほか、農泊やキャンプをしながら農作業や収穫などを体験できる企画や、自然景観を堪能できるカヌー体験などのツアー、ガイドによる北村地域の歴史見学の実施などにより、地域内外での交流を図っています。

また、「北村の歴史ガイドブック」や「北村三兄弟物語」といった北村の歴史に関する副読本を作成しており、歴史ガイドツアーにも活用していく予定です。



石川啄木の碑
(北村豊里)



北村三兄弟物語

【ここが自慢】

農場での収穫や発送といった農作業の体験、地元の食材を使った伝統料理の調理や試食、わら細工の作成体験のほか、植樹と歴史見学を組み合わせたツアー、雁里沼でのカヌー体験、冬には広大な雪原をウォーキングするスノーシュー体験やわかさぎ釣り体験等、季節に関係なく楽しんでもらえる体験メニューが盛りだくさんです！



植樹&歴史見学ツアー



カヌー体験

連絡先

代表者名：石黒武美さん／設立：H16年／会員48名

住所：

電話番号：

F A X：

E-mail：

U R L：



奨励賞

岩見沢市



沿線の草刈り活動



活動前の集合写真

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体 疏水ほっかい愛護連絡協議会 【岩見沢市】

～ いつまでも美しく（北海幹線用水路の景観保全&美化活動）～

【はじめは？】

北海土地改良区管内（9市町）に跨る北海幹線用水路は、空知穀倉地帯の大動脈として重要な役割を果たしているだけではなく、歴史的にも非常に価値が高い施設であることから、北海道遺産や農林水産省が選出する疏水百選にも選定されています。

この北海幹線用水路沿線の景観保全と美化活動を行うため、平成19年に北海幹線用水路沿線の企業24社に所属する有志の社員が集まり、協議会を設立して活動を開始しました。

【おもな活動】

協議会の設立当初より年に5～7回程度、北海幹線用水路沿線の草刈り作業を行い、雑草が取り除かれることで景観が改善されることと併せて、見通しも良くなることで、用水路への落下事故防止にも役立っています。

草刈り作業と併せて桜の植樹活動も行っており、地域の憩いの場の創出にも貢献していて、花が咲くようになれば植樹した沿線が桜並木となるので、新たな観光スポットになることも期待されています。

また、インターンシップに来ている高校生や海外からの農業研修者、地域住民の方などにも参加してもらい、会員以外の方たちとも活動をおして交流を深めています。



沿線の草刈り活動

【ここが自慢】

景観の保全や美化活動として行っている幹線用水路沿線の草刈りや桜の植樹は、毎年500人以上、多い年には年間1,000人以上が参加している活動で、参加者全員が気持ちの良い汗を流した後、昼食として地域名物のとり飯のお弁当が配られることも好評を得ています。

また、植樹をした桜も花を咲かせる箇所があり、春先には満開の桜並木となって、地域の方々の憩いの場にもなっています。



植樹の様子



開花した桜

連絡先

代表者名：及川聡さん／設立：平成19年／会員：31団体

住所：岩見沢市3条西7丁目10
(株)日星電機岩見沢支店内

電話番号：0126 - 22 - 1620

F A X：0126 - 25 - 2271

E-mail：sosui@nissimei-d.co.jp

U R L：



奨励賞

沼田町



手造り「愛菜みそ」

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
沼田町産直グループ 愛菜ママ

【沼田町】

～ 田舎にいる農家の親戚を目指して ～

【はじめは？】

就農して日が浅い若手女性農業者同士の交流や意見交換の場、沼田町で生産している農産物の美味しさを都会の人たちにも知って欲しいという希望と、自分たち自身でもPRをしたくて平成8年に団体を設立しました。

次世代を担う地域の若手農業者にも安心・安全な農作物の生産や加工品の製造、販売に関心を持ってもらい、イベントをとおして都市部の子供と沼田町の子供と一緒に農作業を体験して交流を深めることで、子供たちにも生産者と消費者の繋がりを知ってもらうことや、基幹産業である農業に興味を持ってもらうことを目的として活動を行っています。

【おもな活動】

特別栽培米の麴や大豆など沼田町の農産物を使った手造り「愛菜みそ」や農産物、農産加工品の産地直送による販売では、生産者である会員自らが発送までを行うことで、消費者にも安心して商品を購入してもらっています。

この活動をとおして、私たちが農業に対して誇りを持って作業をするきっかけにもなっており、私たちが目指している安心・安全な農産物の生産や加工品開発への取組を次世代の農業者に繋げて行きたいと思っています。



「愛菜みそ」造り

【ここが自慢】

私たちの栽培した農産物と加工品は、産地直送やイベントで販売していますが、消費者に野菜の育て方や食べ方などの話題も織りまぜながら、農産物や沼田町のことをPRしています。

何よりも安心・安全な農産物を心がけているので、栽培に際しても低農薬にこだわっているのがアピールポイントです。

また、産地直送で発送する際には、会員の手書き通信「愛菜ごよみ」やレシピ集なども同封しています



発送する野菜と「愛菜ごよみ」

連絡先

代表者名：植木千鶴さん／設立：1996年／会員：7名

住所：雨竜郡沼田町字高穂41番地（代表宅）

電話番号：0164 - 35 - 1754

F A X：0164 - 35 - 1754

E-mail：

U R L：



奨励賞

恵庭市



飾りつけたかぼちゃの馬車
(道の駅：花ロードえにわ)

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
一般社団法人 恵庭青年会議所(えにわハッピーハロウィン実行委員会)
【恵庭市】

～ 道内最大級のハロウィンイベント！！ ～

【はじまりは？】

恵庭市はえびすかぼちゃの生産地として知られており、かぼちゃプリンを始めとした様々な特産物があります。その中で、かぼちゃを売りにした地域を盛り上げる事業として「えにわハッピーハロウィン」を企画しました。

イベントを運営する組織として、恵庭青年会議所の会員により実行委員会を立ち上げ、2015年から「えにわハッピーハロウィン」を毎年開催しています。

【おもな活動】

「えにわハッピーハロウィン」では、街を盛り上げることを目的に、恵庭市内の会場にハロウィンかぼちゃを飾りつけて幻想的な風景を生み出し、多くの人々が集まることにより賑わいを創出しています。

そのため、恵庭市内の栽培農家にハロウィンかぼちゃを栽培してもらい、毎年1千個以上、大豊作の年には約2万個のハロウィンかぼちゃを収穫して、来場者や市内の小学生、幼稚園児にかぼちゃを使ったランタンを作成してもらって飾りつけをし、会場に華を添えています。イベント当日は、2021年から「はなふる」をメイン会場としてランタンを飾りつけたりキッチンカーが出店したりと、開催期間中に最大で2万人も来場したことがある一大イベントになっています。



恵庭市内の幼稚園児によるペイントしたかぼちゃ

【ここが自慢】

「えにわハッピーハロウィン」の開催期間中は、恵庭市で栽培したカボチャを使ったジャックオーランタンで会場が埋め尽くされます。会場となる「はなふる」では、ジャックオーランタンの製作体験や景品があたる各種イベント、キッチンカーも出店するなど、子供はもちろんのこと、大人も楽しめる一大イベントです！



運営事務局メンバーとボランティアの皆さん



ジャックオーランタンの製作風景

連絡先

代表者名：進藤祐介さん／設立：1971年／会員：14名

住所：恵庭市京町80番地 商工会議所内3階

電話番号：0123 - 32 - 0196

F A X：0123 - 32 - 4746

E-mail：

URL：<https://ja-jp.facebook.com/eniwa jc/>



特別賞

栗山町
由仁町



田植え作業後の集合写真

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
そらち南農協青年部
【栗山町、由仁町】
～ 受け継ぐ食育交流 ～

【はじまりは？】

基幹産業である農業、特にお米の消費が減少していることから、都市部に居住する親子を対象に、農家と直接交流することで、食と農業について興味を持ってもらい、農産物の消費アップにも繋がりたいとの思いから、約30年前より農作業体験などの交流を始めました。

【おもな活動】

体験する作業は、お米になるための最初の一步となる苗の田植えを春に行い、実った稲穂の稲刈り収穫体験を秋に行っています。農作業を体験した後は、昼食としてカレーライスと一緒に食べたり、餅つき等も行っており交流を深めています。

参加するのは、主に姉妹都市となっている札幌市白石区の親子ですが、栗山町内にある介護学校の学生も参加してくれています。初参加の人は、水田に入る、苗を触ったり植える、収穫期には鎌を持って稲を刈る、全てが初めてで悪戦苦闘しながらの作業ですが、みんなと一緒に体験することで笑顔が絶えない中にも、農業の大変さや生産者である農家を少しは身近に感じてもらえる時間を過ごしています。

普段接する機会の少ない都市部の子供たちとの交流をとおして、農業のやりがいや意欲をかき立てられる場となっていて、私たちも得られるものが多い活動です。



収穫前の稲穂

【ここが自慢】

田植え、稲刈りといった農作業体験や交流を始めて30年、子供の時に参加した方が親になり、子供を連れて親子2代に渡って参加してくれる人や、毎回参加してくれるリピーターもおり、「継続は力なり」を実感しています。

また、栗山町・由仁町内の農産物は、札幌をはじめとした都市部でも販売するイベントを行っており、子供たちとの農作業体験と同様に、栗山町・由仁町のことをPRできる機会になっています。

今後も、消費者の食卓へ、私たち生産者の顔が見える安心・安全な農産物の提供と、信頼され続ける産地として頑張ります。



農産物販売会の様子

連絡先

代表者名：山根達也さん／設立：2009年／会員：92名

住所：

電話番号：

F A X：

E-mail：

URL：<http://www.ja-sorachiminami.or.jp/blog/>



特別賞

札幌市



札幌大球（左）と一般的なキャベツ（右）の大きさ比較

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体 札幌伝統野菜「札幌大球」応援隊 【札幌市】

～ ファイト！！ 札幌伝統野菜「札幌大球」 ～

【はじめりは？】

札幌伝統野菜の一つである「札幌黄」の普及活動を行っている会員が、北海道の風物詩ともなっている「にしん漬」には欠かせない札幌伝統野菜「札幌大球」が「絶滅の危機に瀕している、なくなってしまおう！」との相談を受けて、大学の教授、市役所、料理研究家、スーパーの社長さんといった、立場を超えた有志が集まり「札幌伝統野菜『札幌大球』を途絶えさせてはいけません！！」との熱い思いから、2015年に応援隊を結成しました。

【おもな活動】

漬物メーカーや飲食店の賛同をいただき、収穫時期となる10月上旬から11月にかけて、「札幌大球」を使った加工品開発やメニューを提供してもらうなど協力をいただいています。また、「札幌大球」オーナー制度を設けて市民の方々にオーナーとなってもらい、農場での栽培や収穫の体験、「札幌大球」を使った「にしん漬」を漬物メーカーから送ってもらったり、「にしん漬」を家庭で作るための講習会も開催しています。私たちは、「札幌大球」をわかって食べる、わかって買って欲しいという想いと一緒に、「札幌大球」を広く一般の方にも知ってもらいたい、途絶えさせたくないとの熱い想いをもちて応援活動を行っています。



札幌大球を使った「にしん漬」

【ここが自慢】

「札幌大球」のオーナー制度を設けていることで、収穫時期に「札幌大球」や「にしん漬」が送られてくるだけではなく、都会である札幌市内でも、農場で苗の定植や収穫作業といった農作業の体験が行えます。

また、オーナーになってもらうことで、途絶えかけている伝統野菜を次世代に繋げる役割を担ってもらえるのも大きなアピールポイントです。

さらに、収穫時期には、協力店で「札幌大球」を使ったメニューが期間限定で提供されますので、是非味わっていただきたいです。



農作業体験の様子



期間限定メニュー

連絡先

代表者名：日原康貴さん／設立2015年／会員：20名

住所：札幌市中央区北1条東4丁目8-8
大竹ビル2階 (株)ブレナイ社内

電話番号：011 - 231 - 1713

F A X：011 - 231 - 1714

E-mail：taikyuu@brenaiisha.com

U R L：https://www.sapporotaikyuu.fun/